

心身の健康と、 人とのあたたかい関係は ぬくもりの中で育ちます



心身共に健やかに育つためには、愛情にあふれた安全な環境のもとで、規則正しい生活リズムと基本的な生活習慣を身に付けることが大切です。また、子ども自身が自分の健康に興味を持てるように、まわりの大人が健康の大切さを意識させることも必要です。

この時期は、様々な人との関わりから人間関係の基礎・社会性を育む大切な時期でもあります。愛情や信頼感、思いやりの心、自立心、協調性など、自分以外の人との関わり方の基礎が育つように、あたたかく心地良い環境で保育を進めています。

神さまからいただいた大切な心とからだ まずは興味を持ってみよう!

子どもは「愛されている」と心とからだで感じ、安心することで、自分から積極的に活動に取り組んでいきます。園では、愛されている安心感と喜びをエネルギーに、まずは子どもが「自分のからだ」「生活」に興味を持てるように働き掛けます。そして、健康的な生活のリズムや生活習慣が身に付くようにステップアップしていきます。

- 早寝・早起きの睡眠リズム
- バランスのとれた食事
- 排泄
- 着脱
- うがい・手洗いの習慣
- そうじ



四季の中で
培う心と
からだ

感動に触れながら、健康なからだをつくる

暑い夏も寒い冬も…雨の日だって、水たまりをじゃぶじゃぶじゃぶ。季節ごとに、その天気だから出会う感動を大切に、積極的に外での活動を取り入れて、心とからだを豊かに、健康に育てます。

- 土や砂、水の感触に親しむ
- 水や風を感じ、草花に触れてのびのびと遊ぶ
- めいっばい友だちと遊ぶ楽しさ、充実感、達成感を感じる

目に見えない大切なことを 人との関わりの中で感じとる

生きていくうえで大切な目には見えないことを、保育園生活の中でたくさん感じとって欲しい。関わりの中で、愛と正義と思いやりを大切にすることを育み、自主性・協調性・道徳の芽生えを養えるように関わっていきます。

「共感する心」が生まれると…

- 人への信頼感が生まれる
- 友だちと過ごす中で自分の存在を知り、愛し、相手に思いやりを持って接する
- 共に嬉しさや悲しみを感じ、応え合う
- 大人や年上の子の望ましい行動を模倣し、良いこと・悪いことを判断して行動する
- 頼り、頼られ、支え合う中で成長する
- 地域の人たちとの交流を深め、関わりの中から自分の住む町を知る



最も大切な
乳幼児期
だから

column 見守ることも大切です

乳幼児期の子どもは、色々なことに挑戦したい気持ちと、失敗を恐れる気持ちが交錯しています。成長と共に様々なことに挑戦しますが、大人は手は放しても目と心を離さずに見守ることが大切です。「基本的信頼感」は生まれてからの2年間で育まれます。子どもが何かに挑もうとしている時に、あたたかい眼差しで見守り、失敗したら励ます…そういった親子関係を築きましょう。

